

## 耳に残る心地良いアコの音 ～公園のオブリビオン～

家の近くに公園がある。グラウンドや広場もあり、散歩やジョギングの人たちも多い。休日には野球少年の元気な声が響き、幅広い年齢層の憩いの場になっている。

まだ猛暑が続く8月の土曜日の朝、爽やかなアコの音が聞こえてきた。向かいのマンションかしら、朝から音楽かけて素敵な家もあるんだなあ…と思った。私はラジオかけながら洗濯機回して気忙しく台所。

翌週「あっ、また！」と耳を傾けていると、どうも“生”の音だ。誰かが公園でアコ練習している。セキさんかなと思ったけど、セキさんの選曲とは違う感じ。(金曜教室のセキさんは古くからの友達。この公園の反対側に住んでいる。)

気になって家人に偵察に行ってもらった。「若い男女がグラウンドの脇のベンチで弾いているよ。」とのこと。ふうん、アコ弾きが身近にいるんだ、上手いなあ…と思った。

その翌週もまた聞こえてきた。あまり良い音なのでじっとしてられず、今度は自分が出かけて行った。練習が終わるのを待って声をかけてしまった。「あのマンションに住んでいるんですけど、あまり良い音なので覗きに來ちゃいました。」「え？あんな所まで聞こえるんですか？」「とっても良く聞こえるのよ。毎週楽しみに聞いていたけど、あんまり素敵なので…。」

ブガリのボタンアコを弾く男性は檜山先生の門下生だったとのこと。女性は鍵盤でビクトリア。良い音は楽器だけで作るものではないと分かりつつもしっかりチェックしてしまう私。

この音に刺激され私も練習！…コロナのせいにして随分サボっていたな、と反省しつつ楽器を抱える。何故か気分は晴れやか。…なのに、「ナンカ、音が違うねぇ。」と家人。「楽器が違うのよ！曲も違うでしょ。」(彼等が弾いていたのは「オブリビオン」、私が練習しているのは「長崎の鐘」)

「楽器によってそんなに違うものなのか?」「そうよ、楽器はピンからキリまであって高いのは何百万もするのよ!」…と何故かムキになって言うことは、観点のズレた返答だった。分かってはいるが、「あぁ音の違いが分かるようになったのね」と余裕のある対応はできないのだ。無言でアコに向かうと、「出かけてくる。」と家人は散歩に出て行った。いつでも練習できる住環境に無く、時間とかにも気を使って音を出しているのに…。

いやいや、文句ばかり言っただけだ。練習、練習、と思い直す。耳には彼等の音がいつまでも残っている。柔らかく心に響く音だ。

セキさんには「公園でアコ弾いている若者がいるよ」と連絡しておいた。すると早速「今は大田智美教室に行っているそうですよ」とメールが来た。セキさんも直ぐに会いに行ったらしい。(笑)

その後55ACも7か月振りにレッスンが再開した。まだ月に一度だけれど、とても嬉しかった。(隔月で合奏とソロレッスン)

メンバーは5名だが、久しぶりに仲間と一緒に音を出し、気持ちを合せて練習する時間は本当に充実した至福のひと時だった。あぁ私はアコーディオンが好きなんだなぁ、と改めて感じた。

コロナ禍で心身ともに自粛傾向にあったのか、知らず知らずのうちに閉塞感が漂っていたのか、気がついたら随分委縮している自分が見えた。アコを弾いて大きく深呼吸しよう! 自分で自分を開放しなくちゃ! 良い音を目指して練習しよう、と考える今日この頃。

2020年10月 55AC 佐々木すみえ

